

青森県立郷土館だより

News from the Aomori Prefectural Museum

通巻136号 平成18年(2006)4月11日 Vol. 37 No.1

東京大学総合研究博物館巡回展

石の記憶 —ヒロシマ・ナガサキ

会期 平成18年4月21日(金)～5月14日(日)

1945年。広島・長崎の原爆投下直後に、現地を徹底的に精査する科学者団がいました。物理・化学・地学、生物、土木建築、医学など9分科会2000人に及ぶ文部省(当時)学術研究会議の被爆調査団のメンバー達です。その中に地学班の長として、岩石の被爆状況と被爆範囲の調査や岩石に残された熱線の影から爆央(爆発の中心)を決定するという目的をもって、調査にあたった渡辺武男・東京帝国大学教授の姿がありました。

東京大学総合研究博物館の収蔵庫には、原爆投下直後に広島・長崎で採集された被爆岩石・瓦等百数十点のほか、今までその存在が全く知られていなかった渡辺教授が調査時に自ら撮影した写真が約七十点、さらに当時の被爆調査団に関連する紙資料も多数存在していました。

原子爆弾によって一瞬にして焼け爛れた石と、被爆試料に注がれた科学者の真摯な視線。これらを学術的・芸術的な展示デザインによって見せることによって、静謐な中に原爆を来館者に考えてもらいたい。このようなコンセプトで企画された「石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ」展は、東京大学総合研究博物館を会場に特別展示として開催され、大きな反響を呼び、日本の空間デザインを代表するコンテストでグランプリを受賞しました。

今回はその巡回展として、平成18年4月21日(金)から5月14日(日)まで当館大ホールで開催されます。



展示会場の様子(東京大学総合研究博物館)

学校のご利用、お待ちしております！

当館では、学校を対象とした各種サービスを行っています。どのサービスも無料ですので、各教科の学習、調べ学習、社会科見学、職場見学などにご活用ください。

サービス1 移動博物館 学習のねらいを達成するお手伝いとして「移動博物館」を行っています。県内の学校でしたら、どこへでも、無料で実物資料を持って伺い、お話上手な学芸員が資料の解説や体験活動の補助を行います。学習のねらいに応じて、展開や資料・体験内容を工夫して行いますので、どうぞご利用ください。

平成17年度に一番要望が多かったテーマは、小学校4年生社会科『昔の暮らし』でした。「天秤棒を担ぐ」や「昔の着物を着てみる」等の体験活動を交えながら、道具の仕組み・使い方、昔の暮らしの様子などを解説しました。子ども達は、教科書や資料集でしか見たことのない道具に直に触れることで、昔の人の生活の知恵や道具の工夫に気づいたようでした。

その他、「縄文時代の暮らし」「戦争中の暮らし」「白神山地の自然」「学校の周りの地層観察」「遠足先での自然観察会」「昔の脱穀体験」などの利用がありました。

サービス2 団体観覧・グループ見学 小・中学生の常設展示観覧料は、引率教師・保護者も

含めて無料です。駐車場もありますので、大型バスでの来館もできます。館内は解説員が解説しながらご案内いたします。観覧や解説を授業に関連する展示室だけにしぼることも可能ですし、個別の調べ学習にも対応します。申し込みの際にご相談ください。

サービス3 調べ学習応援団 「調べ学習応援団」は、子ども達の「自ら調べる力」を育てることを目的とし、子ども達の質問に対して、ヒントとなる事やら、調査方法などを提示します。専門の学芸員が広い知識を生かし、的確に情報を提供しますので、ぜひ調べ学習にご活用ください。手紙かFAXで受け付けます。先生方からの質問も大歓迎です。



移動博物館の様子（天秤棒を担ぐ）

土曜セミナーが変わります！

これまで、第2・4週に行われていた土曜セミナーが、今年度から『毎週土曜日』に実施されることになりました。（ギャラリートークは廃止になります。）第2・4土曜日はゲストキュレーター（県内の各分野の研究者や当館OB）が、他の土曜日は当館学芸課の職員によって講演が行われます。

当セミナーでは、県内の動植物や地質に関する講演（自然分野）や、県内の遺跡や遺物等に関する講演（考古分野）、文書や絵図などの歴史資料を使った講演（歴史分野）、また、昔の生活や民間信仰など（民俗分野）の講演が実施されます。ほかに、美術や先人の遺業などの講演も実施

されます。

申し込みは、郷土館受付・電話・FAXで受付めます。原則として一年間を通しての申し込みとなりますが、興味のある講演や都合の良い講演だけに参加いただくこともできます。詳しいことは、電話（017-777-1585）で土曜セミナーの担当までお尋ねください。

【期 日】毎週土曜日 13:30～15:00

【場 所】県立郷土館小ホール

【対 象】一 般

【定 員】60名程度

【受講料】無 料



ものは語る

「トウホクサンショウウオ」

青森県には、クロサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、トウホクサンショウウオの3種類のサンショウウオがいます。

トウホクサンショウウオは本州の東北部に分布し、県内各地の主に里山に棲息しています。



トウホクサンショウウオ 青森県が分布北限

雪解けのはじまる早春から浅い沼や流れの緩やかな小川に、半透明のバナナ状の20～40個の卵が詰まった「卵のう」を産卵します。

トウホクサンショウウオは青森県で採集された個体で名前が付けられました。G. A. Boulenger氏が英国のBritish Museumに保管されていた、G. Lewis氏が青森県から採集した標本によって、1883年に新種として記載しました。その論文には記載文と共に全形図と口腔図が出ています。採集者のイギリス人Lewis氏は、明治初めに日本国内の生物調査をした著名な生物学者です。青森県には北海道調査の途中、明治13(1880)年8月30日～9月9日、10月10日～13日までの間に岩木山、浅虫、七戸、三戸などを訪れています。この期間に採集したのです。明治16(1883)年には青森県のサンショウウオが英国に渡っていたのです。青森県に関わりの深いサンショウウオです。(山内 智)



1900(明治33)～1986(昭和61)年 弘前市出身

弘前市で生まれ育った洋次郎は、1925(大正14)年に慶應義塾大学を卒業して帰郷、弘前高等女学校(現弘前中央高校)に教師として職を得ます。その後、秋田県立横手中学校(現横手高校)を退職するまで14年間にわたる教師生活を送りました。その間に『三田文学』に「海をみに行く」、次いで「若い人」を発表します。地方の女学校を舞台に教師と女生徒を描いた「若い人」は、1936(昭和11)年に第一回三田文学賞を受賞し、刊行されるとたちまちベストセラーになります。映画化もされたこの作品は、若い男女の青春が生き生きと語られ、戦争へと傾斜しつつある暗い世相の中で幅広い人々の支持を得ました。

1938(昭和13)年、教師と作家という二重生活に区切りをつけ、翌年には「何処へ」、その後「美しい暦」など次々に作品を発表・刊行し、職業作家としての自信を深めていきました。

戦後まもない1947(昭和22)年、朝日新聞に「青い山脈」を連載、初めての新聞連載小説の舞台に学校を選び、民主主義的思想、新しい教

育のありかた、若者の友情と恋愛を明るく、そして健康的に描きだしました。映画化された「青い山脈」は、「若い人」をこえる評判を勝ち取り、その主題歌とともに戦後の昭和期を代表する作品となりました。大成功をおさめた洋次郎は、「山のかなたに」「陽のあたる坂道」など次々に新聞連載小説を発表、流行作家として脚光を浴び、ひとつの時代を築いたのでした。(太田原 慶子)



『若い人』・『続若い人』 改造社 1937年発行
(青森県近代文学館所蔵)

～2006年度の展覧会紹介～

伊藤正規「紺綬褒章受章記念展」

五所川原出身で日展を中心に活躍している洋画家、伊藤正規（1912～）の初期未発表作品から現在までを紹介

4月7日（金）～4月16日（日）
主催 受章記念展実行委員会

東京大学総合研究博物館巡回展 石の記憶展－ヒロシマ・ナガサキ－

原爆投下後の広島・長崎に入り、被爆岩石の調査にあたった科学者が採集した資料、調査ノートを開

4月21日（金）～5月14日（日）
主催 郷土館（企画展）

北斎と広重展

「富嶽三十六景」「東海道五十三次」など浮世絵風景画の二巨匠が描く代表作をはじめ、肉筆画をまじえた約240点を一堂に展示

5月20日（土）～6月11日（日）
主催 青森テレビ

世界遺産 高句麗壁画古墳展

日本の装飾古墳の源流ともなった高句麗壁画古墳を大型写真パネルで紹介

6月17日（土）～7月2日（日）
主催 東奥日報社

おがわら湖の自然史

当館が5年にわたって調査した、小川原湖と周辺の湖沼・湿地帯の豊かな自然を報告

7月14日（金）～8月27日（日） 主催 郷土館（企画展）

わが家にテレビがやってきた

－昭和30年代以降のくらしの変遷をたどる－

人々のくらしが大きく変化した昭和30年代以降のくらしをさまざまな視点で見つめ直し、懐かしい多くの資料で紹介

9月15日（金）～11月5日（日） 主催 郷土館（特別展）

旅順博物館蔵 日中書画作品展覧会（仮称）

中国旅順博物館所蔵の近世近代日本画と明清代の書を紹介

11月11日（土）～12月10日（日） 主催 東奥日報社

郷土玩具展 北 彰介コレクションを中心に

民話作家・研究者であった故北彰介氏より寄贈された郷土玩具コレクションを中心に、日本各地の郷土玩具を紹介

12月19日（火）～1月14日（日） 主催 郷土館（企画展）

あおもり新発見2006

2006年に発見された資料や当館による調査研究の成果を紹介

2月9日（金）～3月18日（日） 主催 郷土館（企画展）

郷土館観覧料の改定について

平成18年4月1日より、常設展・特別展（郷土館主催）の観覧料の一部が、次のとおり改定されましたのでお知らせします。

- ① 団体料金（20人以上）の割引きが、5割引きから2割引きになりました。
- ② 65歳以上の方の観覧料が、免除から免除なし（一般と同額）になりました。

なお、障がいのある方、生活保護を受けている方、および老人福祉施設に入所している方等については、引き続き観覧料が免除になります。

また、土曜セミナー等の受講については、引き続き無料です。

<改定後の料金>

(1) 常設展

区 分	通常期間	特定期間(1・2月)
小・中学生	無 料	無 料
高校・大学生	150円(120円)	120円(100円)
一 般	310円(250円)	250円(200円)

※（ ）内は、20人以上の団体料金です。

(2) 特別展（郷土館主催）

区 分	料 金
小・中学生	無 料
高校・大学生	240円(200円)
一 般	500円(400円)

※（ ）内は、20人以上の団体料金です。

